

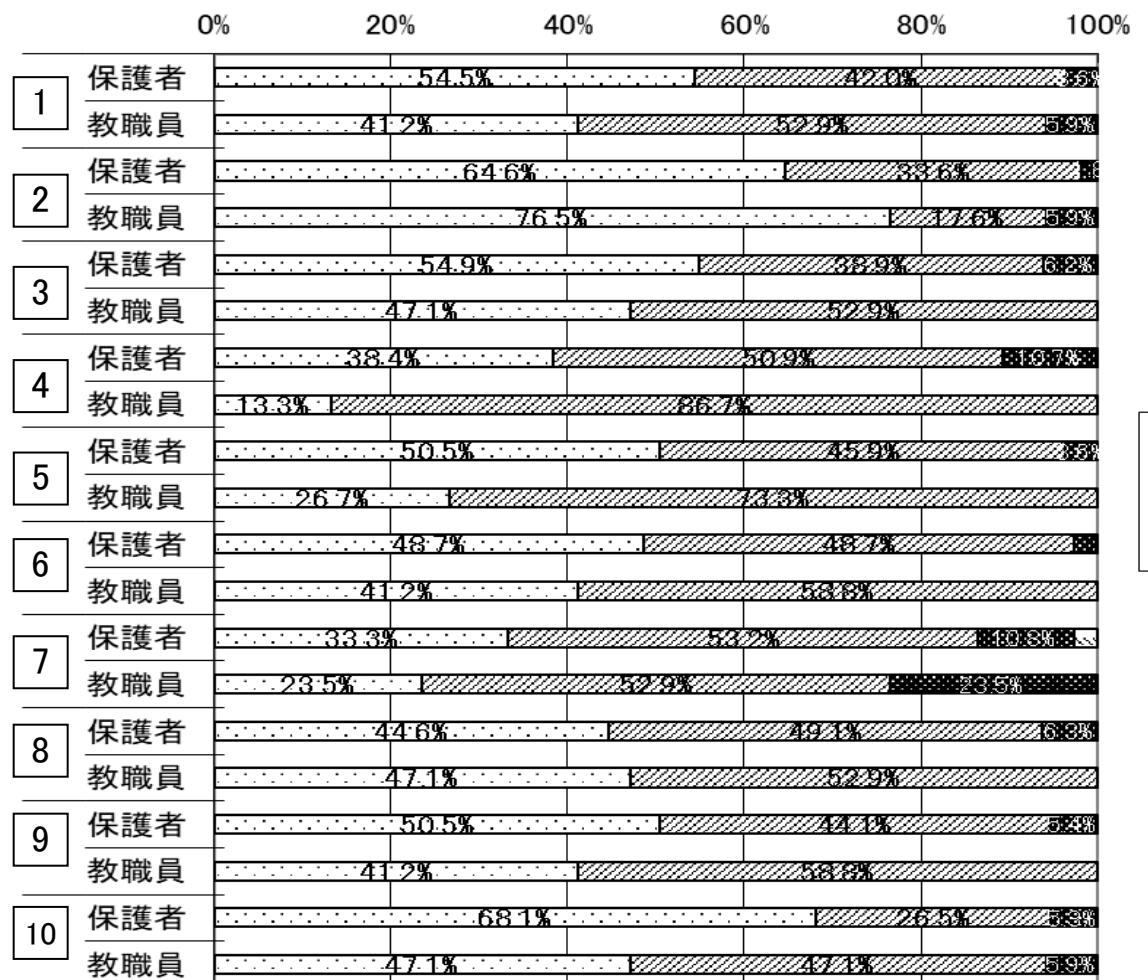
前期 学校評価アンケート結果について

京都市立乾隆小学校
校長 山本 太郎

先日は、学校評価アンケートにご協力をいただき、ありがとうございました。以下の通り、アンケート集計結果をお知らせいたします。回収率は、83%でした。

アンケート項目

- 問1 教育方針や取組内容を学校だよりや懇談会等の機会にわかりやすく伝えている。
 問2 教育目標の達成に向けて、情熱を持って教育にあたっている。
 問3 子ども一人ひとりが大切にされて、認められる学校づくりを進めている。
 問4 宿題や家庭読書など家庭での学習習慣が身についている。
 問5 教科の学習内容がわかり、基礎的な学力が身に付く取組を進めている。
 問6 集団での規律やマナーなどが身に付くような取組を進めている。
 問7 早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身についている。
 問8 子どもが成就感や満足感を感じながら学校生活を送れるような取組が進められている。
 問9 子どもに力をつけていってほしいという保護者の思いや願いに応えようする姿勢が見られる。
 問10 様々な取組や行事等を通して、家庭・地域と協力して子どもの教育にあたっている。



A : よくあてはまる B : ややあてはまる C : あまりあてはまらない D : あてはまらない

アンケート結果から ※()内は、前年度9月との比較

問2『教育目標の達成に向けて、情熱を持って教育にあたっている。』では、「よくあてはまる」が 64.6% (+6.3%) と高い評価をいただきました。教職員評価でも 76.5% (+20.9%) となっており、熱意をもって指導に向かっていることの表れであると考えます。問5『教科の学習内容がわかり、基礎的な学力が身に付く取組を進めている。』は、学校教育で最も重要な内容です。ここでも、「よくあてはまる」が 50.5% (+6.3%) と高い評価をいただきました。その反面、教職員評価では 26.7% (-6.6%) と低い評価でした。日頃から、「指導と評価の一体化」を図り、1日1日の授業をふり返すことによってよりよい指導に結びつけるようにしています。低い教職員評価は、この過程で、「もっとわかりやすい授業」「もっと子どもが生き生きする授業」を求めていこうという意欲の表れであると考えます。

問3『子ども一人ひとりが大切にされて、認められる学校づくりを進めている。』では、「よくあてはまる」が 54.9% と高い評価をいただいているが、前年比較で-4.3% と評価が下がっています。教職員評価でも、47.1% (-8.5%) と同様の傾向です。この項目は、学力保障と同様、学校教育において重要な内容です。子ども一人一人にとって学校が安心して過ごすことができる場所であるために、互いのよさを認め合い、自己肯定感を高めることができるような取組を進めていくことが重要と考えています。問4『宿題や家庭読書など家庭での学習習慣が身についている。』では、保護者・教職員とも課題があると考えている項目です。保護者評価では、「あまりあてはまらない」が 10.7% と高く、それだけなかなか家庭での学習の習慣が身に付かないと考えている保護者があるということになります。教職員評価では「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせると 100% になり、「家庭学習はできている」という評価ですが、それは家庭での支援に支えられているという事実が見えてきます。毎日の家庭学習を大切にすることの意味を子どもたちにしっかりと伝え、主体的に家庭学習に取り組む子どもを育てていきたいと考えています。問7『早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身についている。』も、非常に課題の大きい項目です。「あまりあてはまらない」が保護者 10.8%、教職員 23.5% と高くなっています。朝の登校の様子を見ていると、始業時刻を過ぎてから登校する子どもの姿も見られます。高学年になるほど、就寝時刻が遅くなる傾向がありますが、子どもたちの健やかな成長のためにも、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付くよう、引き続きご家庭での支援をお願いします。

※この評価結果については、学校運営協議会の理事会でも報告させていただきました。理事の皆さんからは、以下のようにいろいろなご意見をいただきました。

- ・乾隆小学校が育てたいと考えている「すすんで活動し、挑戦する姿」をめざすためには、失敗することを認められる環境が大切。大人もそういうことを大切にしていきたい。
- ・家庭学習については、学校は子どもたちが家庭学習の習慣を身に付けるための取組をがんばっている。家庭との連携をとっていくために、これからも家庭に働きかけていくことが必要では。
- ・早寝・早起き・朝ごはんの習慣について、身に付いていない家庭が存在している。この10%の子どもたちをどうとらえるかが大切ではないか。
- ・現在では、各家庭の生活スタイルが多様化してきている。アンケートの各項目の質問が、いろいろな生活スタイルがあることを踏まえたものであるかどうか考える必要があるのでは。

また、保護者の皆様からは、記述式でのご意見・ご要望等もいただきました。いただいたご意見等は、これから取組・学校教育活動に反映していきたいと考えております。